

相談援助演習Ⅱ

担当教員 平川 泰士

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

相談援助の知識と技術に係るほかの科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができることをめざす。①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により実施する。

【授業の展開計画】

- 01 シラバスの説明。アイスブレイキング。事例研究及び実技指導（ロールプレイ等）の意義の理解。
- 02 面接の過程の（インテーク・アセスメント・プランニング・支援の実施・モニタリング・効果の測定・終結・アフターケア）の理解
- 03 身体障害（社会的排除を含む）①事例の理解
- 04 身体障害（社会的排除を含む）②相談援助場面及び過程の理解
- 05 身体障害（社会的排除を含む）③実技指導（ロールプレイ、モデリング）
- 06 知的障害（社会的排除を含む）①事例の理解
- 07 知的障害（社会的排除を含む）②相談援助場面及び過程の理解
- 08 知的障害（社会的排除を含む）③実技指導（ロールプレイ、モデリング）
- 09 精神障害（社会的排除を含む）①事例の理解
- 10 精神障害（社会的排除を含む）②相談援助場面及び過程の理解
- 11 精神障害（社会的排除を含む）③実技指導（ロールプレイ、モデリング）
- 12 高齢者（虐待を含む）①事例の理解
- 13 高齢者（虐待を含む）②相談援助場面及び過程の理解
- 14 高齢者（虐待を含む）③実技指導（ロールプレイ、モデリング）
- 15 まとめ（面接の過程の理解）

【履修上の注意事項】

小集団による話し合いやグループワークを行うので、積極的に参加することを求める。本演習では、社会福祉士、精神保健福祉士の国家資格の取得を前提とし、専門職として就労することを目標にする学生が望ましい。また、指定された課題について、あらかじめ調べ準備を整え、不明な箇所については自身で調べ直す予習復習を求める。

【評価方法】

授業態度・発表30%、予習復習による自主的学習態度が20%、課題の内容・提出状況、学期末時の課題が50%による総合評価とする。

【テキスト】

講義時に紹介する

【参考文献】

講義時に紹介する